

# “つないでひらく”体験交流施設

## 大きな軒下に寄り添う 普段使いの創作と交流の場

「筆の里」をゆるやかにつなぐ、開かれた「体験交流施設」。

本提案では、体験学習や創作、屋外での自然体験など、日々の多様な活動の中から学びを得る「普段使いの生涯学習施設」を目指します。

知的好奇心を満たす場である「筆の里工房」から、地域の身近な自然から様々な気づきを得る都市公園「創造の丘公苑」まで、バリアフリーな循環型の道「インクルーシブ・パス」で毛筆文字のように滑らかに繋ぎ、このパス沿いに「体験交流施設」を配置します。各施設の機能連携を図るとともに、大きな軒下がバスから建物の内部をゆるやかにつなぐことで、誰もが立ち寄りやすい施設とします。

子連れから小中学生、お年寄りまで、体験学習や創作活動は元より、思い立った時に気軽に訪れて充実した時間を過ごせる「まちのリビング」となることを目指します。

### 設計チームの特徴と取り組み体制

これまでのプロジェクトで協働実績のある協力事務所とチームを組み、提案力と技術力を十分に発揮します。このチームはまちづくりワークショップの経験が豊富であるため、ヒアリングやワークショップの結果をスムーズに設計に反映します。同時に建物の用途や使われ方を把握し、最適解となる設計を行います。設計・監理に際しては東京の本社に加え、大阪の支店との連携により、機動力のある業務を心がけます。広島県内や近隣の島根県、愛媛県での設計・監理実績もあり、公共建築の実務経験を有する複数のスタッフが業務にあたることで滞りなく業務を完遂します。併せて、コロナ禍以前より積極的に取り入れていたオンラインでの設計監理業務のノウハウも活かし、細やかな状況把握と情報共有に努めます。

**意匠設計  
(一級建築士)**

**大学研究室**

**構造設計  
(構造設計一級建築士)**

**設備設計  
(設備設計一級建築士)**

### 業務の実施方針

設計のプロセスで住民との対話や現地でのワークショップなどを通じて「みんなでつくる」ことを重視します。これまで全国各地、その中でも中国地方では島根県出雲市や瀬戸内海島嶼部でワークショップ実施実績があり、地域の人々に親しまれる施設が実現しています。設計チームは中大規模木造建築をはじめとする木造建築や混構造建築など適材適所に木を用いた建築の設計および構造・防耐火に関する研究開発を行っており、木材を無理なく使った環境に優しい合理的な建築を実現することを目指します。



### 設計上の配慮とコスト管理方針

#### ①汎用的な構造システム

軽量な構造とすることで地盤に大きな負担をかけず、直接基礎を主としてコストに配慮します。(具体的には、設計段階で詳細なポーリングデータをもとに、必要な場合は部分的に地盤改良をします)。また、汎用的な工法とすることで、ローコストで地域の工務店で施工可能となることを配慮します。

#### ②分棟配置による柔軟なプランニング

適正な規模の施設群を分棟で配置することにより、防耐火要件や構成の複雑化を避けコストの適正化を図るとともに、住民の方々の意見を取り入れながらプランニングできるような構成を目指します。

#### ③筆の里全体の連携を重視した造成計画

現行の造成計画には必要最小限に変更を加えつつ、筆の里工房から創造の丘公苑までを繋ぐ「インクルーシブ・パス」を計画することによって、外構工事のコストを抑えながら筆の里全体の連携をつくりだします。

#### ④鉄骨と木による合理的で安全な設計

中大規模木造建築に関する豊富な経験を活かし、防耐火要件や構造の条件などに合わせて鉄骨と木を適切に使い分ける設計を行うことで、合理的かつ安心な建築を実現します。

#### ⑤自然エネルギーの活用

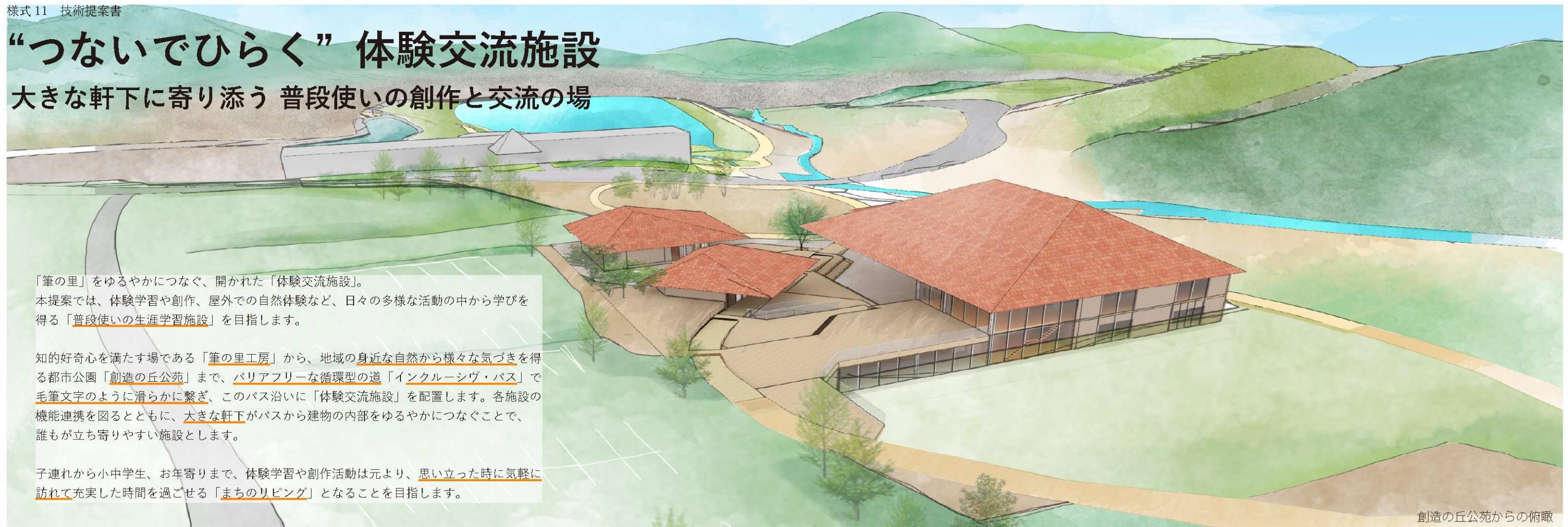
自然採光や自然換気、太陽光発電など、自然エネルギーを積極的に活用することで、環境負荷を減らし、ランニングコストの低減を目指します。

コスト概算表

I. 直接工事費 (1)+(2)+(3)+(4)	407,450,000	265,300	工事費割合 建築工事費割合
(1) 建築工事(A)+(B)+(C)	197,660,000	128,700	39.54%
仮設 計(A)	8,290,000	5,400	4.19%
土工	13,360,000	8,700	6.76%
地業	16,590,000	10,800	8.39%
躯体	68,340,000	44,500	34.57%
構造 計(B)	98,290,000	64,000	49.73%
外部仕上	48,380,000	31,500	24.48%
内部仕上	42,700,000	27,800	21.60%
仕上 計(C)	91,080,000	59,300	46.08%
(2) 設備工事	120,560,000	78,500	24.11%
(3) 外構工事	82,320,000	53,600	16.47%
(4) 昇降機設備工事	6,910,000	4,500	1.38%
II. 共通費 (5)+(6)	92,490,000	60,200	
(5) 共通仮設費 4.2%	17,112,900		3.42%
(6) 諸経費 18.5%	75,378,250		15.08%
III. 合計 (工事価格)	499,940,000	326,000	100.00%

\*茶室の移築費を含む

(税込 円) (税込 円/m<sup>2</sup>)

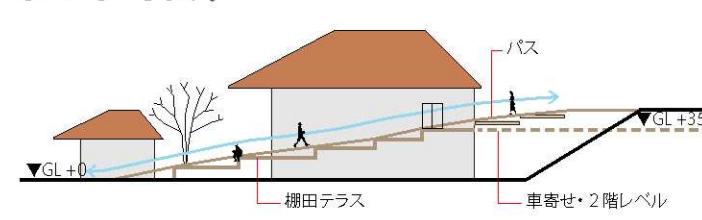


創造の丘公苑からの俯瞰

ア：施設機能 エ：経済性・現実性

## インクルーシブ・パスでつながる多様な場

知的好奇心を満たす場である「筆の里工房」、地域の身近な自然から様々な気づきを得る都市公園「創造の丘公園」、そして創作や体験の場である「体験交流施設」を、施設内外を貫くバリアフリーな循環型の道「インクルーシブ・パス」で毛筆文字のように滑らかに繋ぎます。多様な方々の利用を想定したパスは、駐車場やハイキングコース、隣接する中学校への既存のアクセスルートとも接続し、各施設の特徴を活かす一体的な機能連携を目指すとともに、豊かな「普段使いの生涯学習の場」を描き出します。インクルーシブ・パスは敷地南北の高低差を結ぶスロープとなっているため、筆の里工房から創造の丘公園までをバリアフリーに繋ぎます。ここからそれぞれの体験学習施設や、屋根付き広場へアクセスすることもできます。

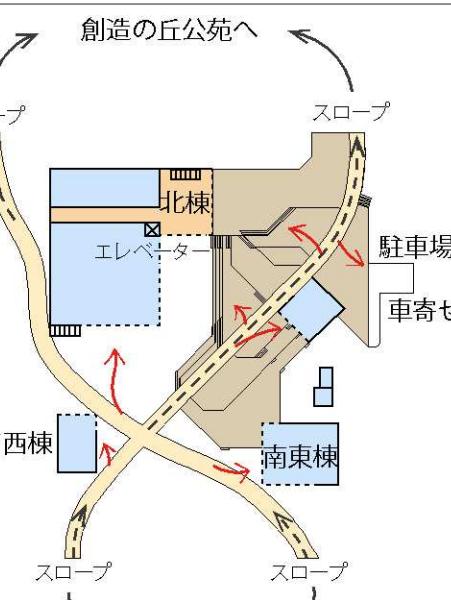
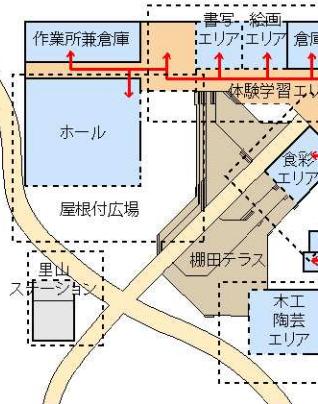


## さまざまな人々に配慮したアクセシビリティ

敷地南側に隣接した部分にはロータリーを設けず、筆の里工房と最小のレベル差でつながるインクルーシブ・パスと緑地帯を設けた上で道路側にはバス停を兼ねた車寄せを設置し、双方への車からのアクセスを確保します。北棟2階レベルの棚田テラスを東側の駐車場と同じに設定して擦り付けることで、利用者がレベル差なく施設2階へアクセスすることが可能です。

## 管理のしやすさを重視した居室配置

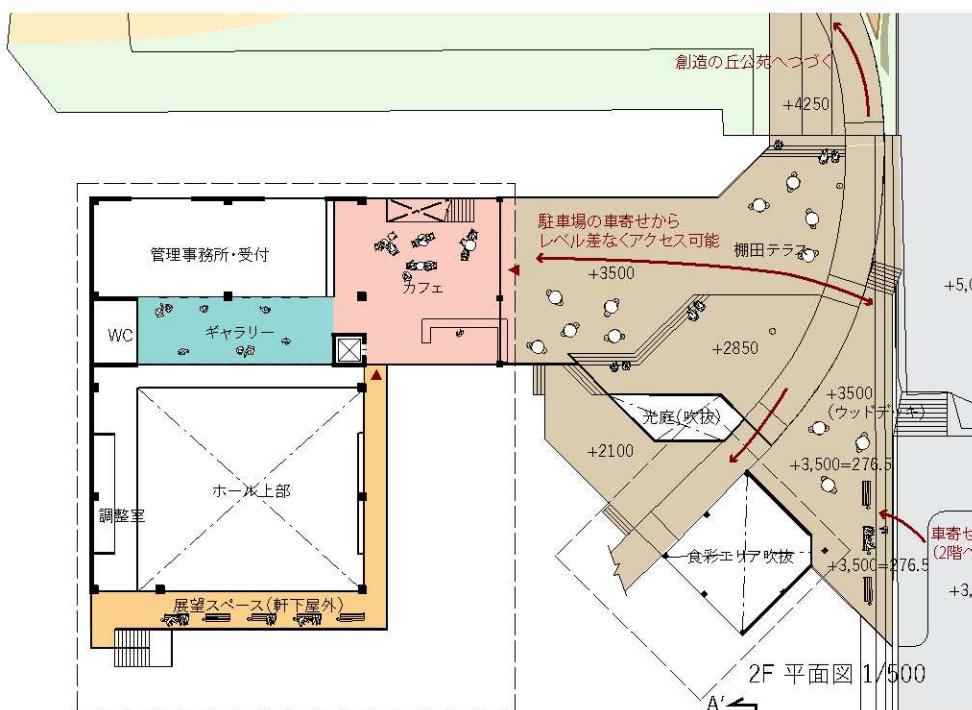
体験学習施設各エリアの居室は、臭気や騒音に配慮して分散配置をしつつ、動線をシンプルにして管理がしやすい様に配慮します。一方で、エリア相互や連続する共用部、屋根付き広場などと一体的に使用することが可能で、連携した利用にも対応します。



## 諸室面積表

室名	用途	場所	面積(㎡)
体験学習施設A	書写エリア	北棟1F	54.4
	絵画エリア	北棟1F	54.4
	食彩系エリア	北棟1F	65.1
	木工・陶芸エリア	南東棟	98.5
	茶室エリア	茶室棟	15.5
	体験工房サロン	北棟1F	132.1
	(小計)		420.0
体験学習施設B	ホール	北棟1・2F	276.7
	ギャラリー	北棟2F	58.5
	(小計)		335.2
管理事務所	事務室	北棟2F	104.0
	倉庫	(小計)	268.3
カフェレストラン	カフェレストラン	北棟2F	109.3
休憩所	休憩スペース	北棟1F	59.9
トイレ	(小計)		87.5
階段室・EV	(小計)		16.6
通路・廊下	(小計)		52.3
展望台	(小計)		81.7
施設面積 計			1534.8
屋根付き広場	ホール側	北棟	374.9
	食彩系エリア側	北棟	112.4
	木工・陶芸エリア側	南東棟	150.0
	倉庫・里山	南西棟	107.4
屋根付き広場 計			744.7

調整池

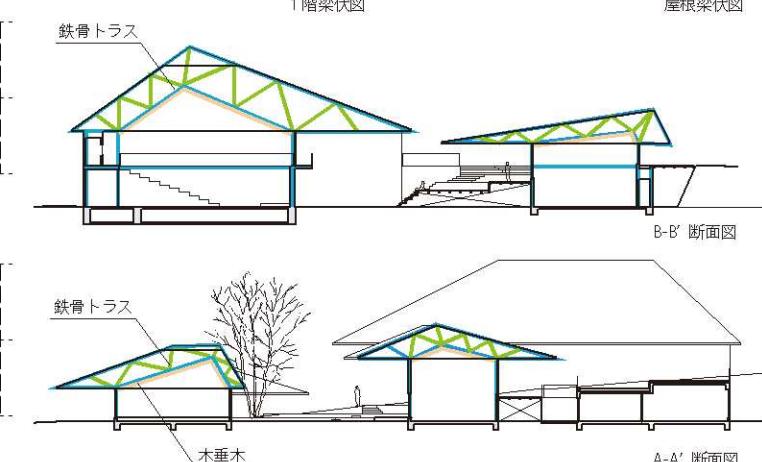
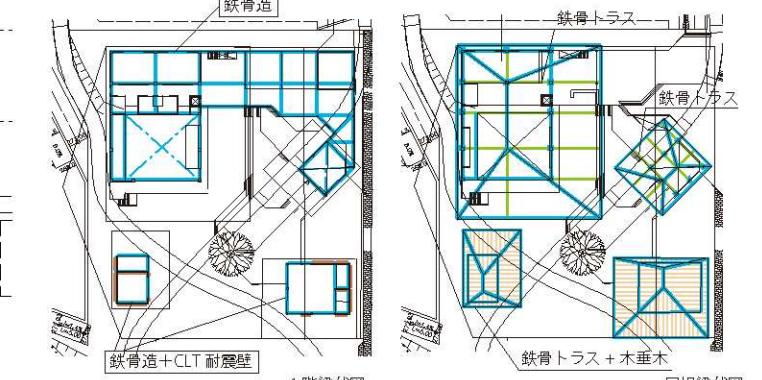


調整池

## 鉄骨と木を使用した合理的な構造・防耐火計画

事務室・ホールや書写・絵画エリア・食彩エリア等を擁する北棟は鉄骨造、南側の南東棟（木工・陶芸エリア棟）と南西棟（里山ステーション・公園管理倉庫棟）は、鉄骨と木のハイブリッド構造とします。北棟は、ホール部分の防耐火要件を満たすため耐火建築物とする必要があり、かつ屋上のウッドデッキ部分の水仕舞いに配慮するため鉄骨造として、軒裏や内装の木質化を積極的に行います。南東棟および南西棟は、別棟とすることで防耐火要件が簡易なものとなり「その他建築物」で建設可能であるため、鉄骨と木のハイブリッド構造として、木を空間にあらわして使用します。柱と屋根のメインフレームは鉄骨として、垂木と耐震壁に木を用います。垂木は小梁の延長として容易に施工できる構成とし、耐震壁にはCLTを用いることを検討します。耐震要素を強くすることで鉄骨を細くすることが可能となり、低コスト化に寄与するとともに、地域の工務店でも施工可能な構成とします。本提案の特徴である大きな軒の出を無理なくつくるため、屋根は鉄骨トラスで構成します。室内部分は屋根勾配なりに天井面を折り上げることで空間に広がりを持たせると共に、上部の換気口を用いて自然換気にも寄与します。

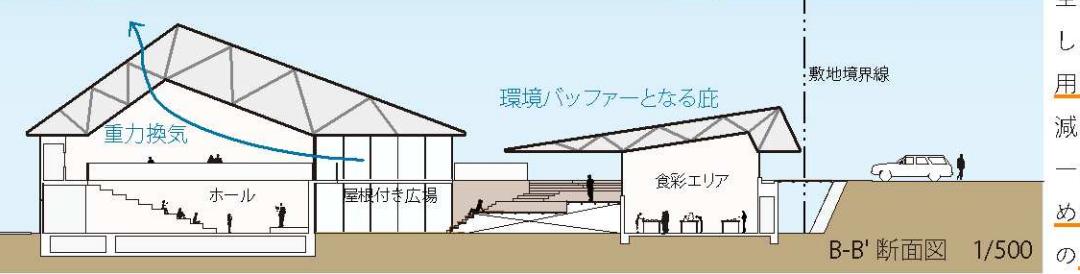
鉄骨梁  
鉄骨トラス  
木垂木  
CLT耐震壁



## 環境負荷の小さい設備計画

建物の形状の特徴により、自然採光や自然換気を重視した環境負荷の小さい設計としています。風の通り抜けやすい断面計画や、軒下空間のバッファーゾーンを介すことによる環境負荷の低減に配慮し、ランニングコストの低減を目指します。また、汎用的な機器を用いることのできる設備計画とすることで、イニシャルコストの低減にも配慮します。

一方で、本施設は公園施設の一部でもあることから、夜間照明のための太陽光発電と蓄電池や、雨水を用いた散水設備など、普段使いの「フェーズフリー」な防災設備を併せて検討します。





### 周辺の景観と呼応した居場所づくり

かつて敷地周辺に広がっていた棚田や段々畑、背後に広がる安芸アルプスの山並みと呼応した場所づくりを目指します。

施設をめぐり体験をつなぐ道「インクルーシブ・バス」と、地形に沿って展開する活動の場「棚田テラス」、集落のような体験交流施設群にかかる大きな軒下を生み出す「里山ルーフ」が、原風景である里山や安芸アルプスのやまなみと呼応した景観を生み出します。

創造の丘公苑の、体験学習施設につながる斜面はレベル設定を工夫し、棚田の地形や石組をそのまま活かしたランドスケープ「里山プレイス」を提案。

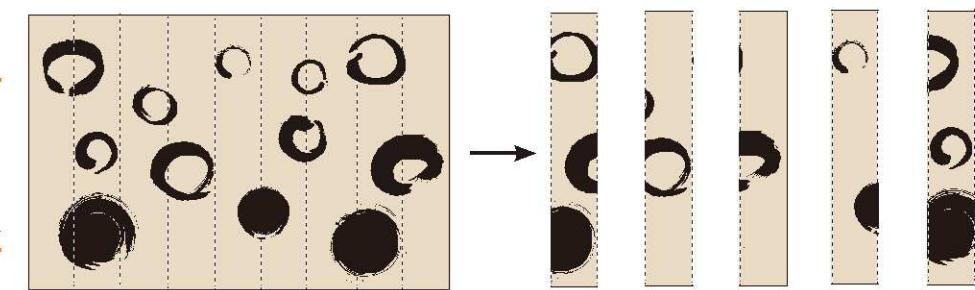
比較的温暖で晴天率の高い気候条件を活かし、室内外連続して使える開放的な施設とすることで多様な活動が可視化され、気軽に立ち寄り滞在できる「まちのリビング」のような居心地良さを目指すとともに、変化の激しい社会的状況や使い手の方々からの要望に柔軟に対応できるよう、配慮します。

### 「みんなでつくる」場所にする—柔軟なプラン構成と参加型の「筆の壁」—

本提案は集約分散型の分棟配置となっており、設計段階での調整がしやすい構成となっています。住民参加によるワークショップやヒアリングの結果に、柔軟に対応することができます。

皆が集まる大きな軒下部

分の外壁には、地域の方々の参加による「筆の壁」を採用します。文字や絵を書いていただいた板材をパッチワーク状に配置し、筆の町 熊野町を象徴する外装仕上げとします。



### 住民参加がしやすい施設—活動拠点と参加型プログラムの提案—

公園でのウォーキングや野外活動に使える「里山ステーション」を、公園管理倉庫と併せて別棟で配置します。施設の休業時間帯にも着替えや休憩をすることができ、早朝や夕方、夜間の活動に対応します。併せて、公苑の運営プログラムとして自然体験と併せて住民参加による緑の手入れをする「筆の里ワーク」のような参加型の活動、日常的に実施にも対応します。

さらに、休憩スペースやカフェレストラン、棚田テラスに展開する「みんなの本棚」など、ランニングコストの適正化を図りつつ、住民が主体的に施設の運営に関わり「みんなで工夫して運営」できる仕組みを、地域の方々との意見交換の中で共に考え、建築に盛り込んでゆきたいと考えています。

